



問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部技術・国際課

火山調査官 伊藤 弘志

電話 03-5500-7122

平成25年12月26日

海上保安庁

新島が西之島と接続し一体に

12月26日午前、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島付近の火山活動の観測を実施した。西之島付近の新島の溶岩流は西之島の南岸まで到達し、新島は西之島と2ヶ所で接続し両島は一体となっていることを同日午前9時23分に確認した。

山頂の火口西側の流出口から出た溶岩は、新島の北東岸に流れ込んでいる。山頂の火口及びその北北東の火口からは、30秒から1分程度の間隔で噴火が起き、茶色の噴煙が高さ約100メートルまで噴き出ている。また、それぞれ青白色の火山ガス及び灰白色の噴煙が連続して放出されている。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授から「山頂の火口及びその北北東の火口では爆発を繰り返しており、マグマの頂部は山頂の火口の極めて浅いところに達している。また、噴煙量は24日に比べて明らかに増大しており、溶岩流出も継続するなど極めて活発な活動状態にあることから、深部からのマグマの供給が増加していると考えられる。」とのコメントが得られた。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

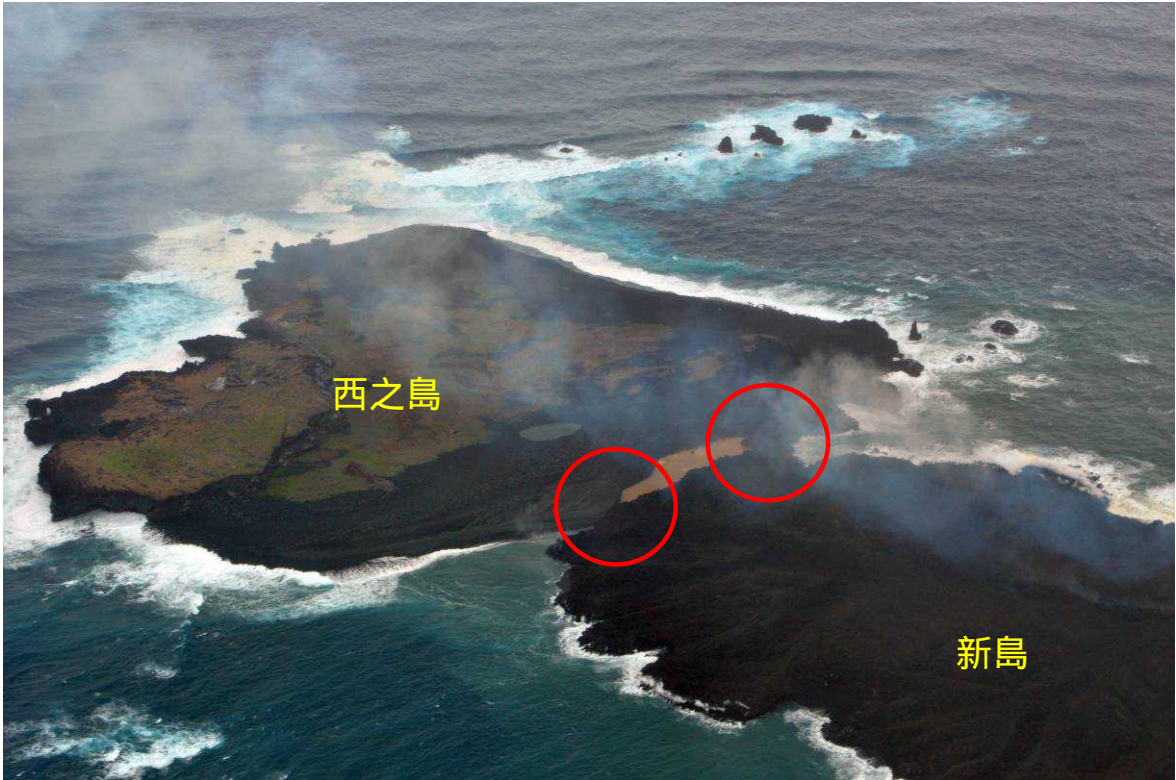


写真1 西之島と新島の接続部（赤丸部分）（12月26日撮影）



写真2 西之島と新島の様子（12月26日撮影）

矢印部分は新島北東岸に流れ込んだ溶岩



写真3 活発に活動する山頂の火口及び北北東の火口（12月26日撮影）